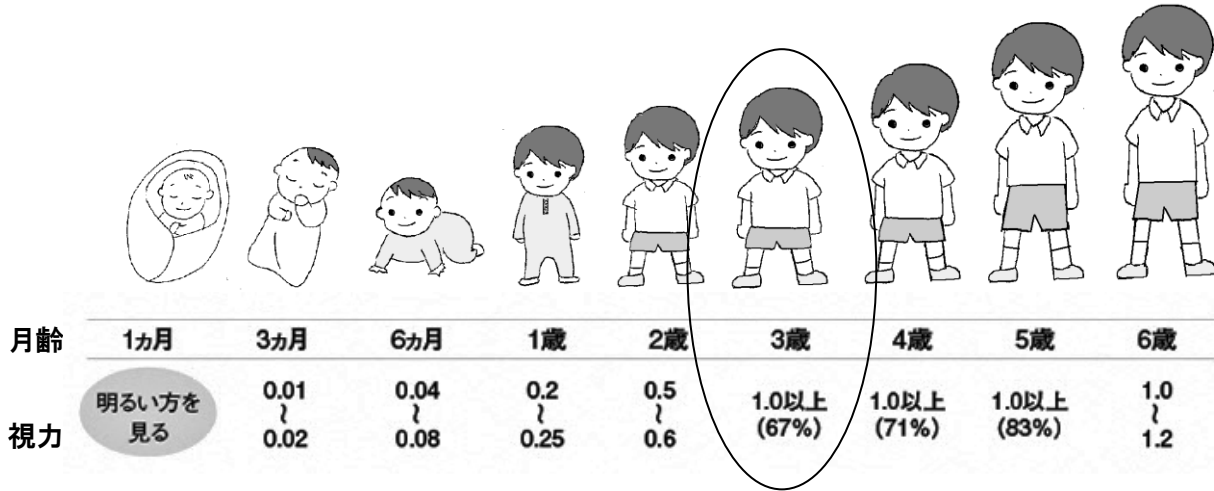


子どもの視力と弱視について

視力が発達するのは6歳までの期間限定！
早期発見・早期治療を！

〈視力の発達について〉

視力が発達する時期は限られており、生後1か月から発達しはじめ1歳半ごろにピークに達し、3歳で1.0以上見えるようになってきます。その後発達スピードが徐々に減衰し、6歳ごろに発達が完了すると考えられています。



〈弱視とは〉

乳幼児期に網膜（眼底）まで鮮明な映像が届かないと、脳の映像を理解する働きが発達せず、視力の発達が止まってしまうことがあります。これを弱視といいます。

早い時期ほど弱視治療に対する反応が良く、遅くなるほど悪くなります。

早期に発見し治療するためにも、3歳のタイミングで視力チェックを行うようにしましょう！

弱視の世界



ぼんやりと見えているため、日常生活の中で弱視を見つけるのは難しく、小学校に入学してから黒板が見えなくて発見される子もいます

